

牛方とやまんば

牛方とやまんば

(日本の昔話)

昔、牛方が、牛のせに塩さばを積んで、山道を運んでいました。すると、山からやまんばがあらわれました。「さばを一ぴきよこせ。」牛方がさばを投げると、やまんばはむしやむしや食べて、また追いかけてきます。とうとう、さばは一ぴきもなくなりました。

「こんどは、牛をよこせ。」やまんばは、牛まで食べてしまいました。牛方は、無我夢中むがむちゅうでにげ、山の中の一軒家いっけんやにかくれました。

ところが、そこはやまんばの家でした。帰ってきたやまんばは、もちを焼きながら、いろいろのそばでいねむりを始めました。

天井のはりの上にかくれていた牛方は、長いぼうで、もちをつついて取り、こっそり食べてしまいました。目をさましたやまんばは、ふしぎに思いながら、かまの中にもぐってねむりました。

牛方は、すかさずかまにふたをして火をたき、やまんばをたいじしたということです。

1 牛方は、牛のせに何を積んでいましたか。

2 やまんばがしたことの順に、□に1・2・3を書きましょう。

--	--	--

牛を食べる。

--	--	--

さばを食べる。

--	--	--

もちを焼く。

3 もちがなくなったのは、どうしてですか。

--	--

4 牛方は、どうやってやまんばをたいじしましたか。

ア ぼうでたたいた。

イ かまにふたをして、火をたいた。

ウ 川に落とした。